

しが国際協力親善大使レポート

むらしま まさえ
村島 正江さん

隊次：2016年度4次隊

職種：看護師

派遣国：ソロモン

プロフィール

滋賀県の病院で約15年看護師として勤務した後、青年海外協力隊に参加。2017年3月より、ソロモン諸島ウエスタン州ニュージョージア島セゲにて活動中。

任国・地域の気候の変化や文化の紹介

ソロモン諸島はオーストラリアの北東に位置し、私の配属先があるセゲはMAROVO(マロボ)ラグーン内にあります。このラグーンの大きさは世界で一番です。ラグーン内の海には、様々な魚や珊瑚が自然のまま存在しており、とても美しい海の世界を見ることが出来ます。

気候は1年を通して高温多湿であり年中半袖・短パンで過ごせます。雨季(1月～4月)と乾季(5月～12月)があり、平均気温は32～35℃前後(首都ホニアラ)です。

活動や生活について

私は、ソロモン諸島ウエスタン州ニュージョージア島セゲのセゲ地域診療所で活動しています。セゲでの暮らしは、日本と全く違い初めは戸惑う事ばかりでした。薪を使い調理する事、暑い気候の中冷蔵庫もクーラーもない生活、小さなお店が数える程しかなく、唯一新鮮な野菜や食材が購入できるマーケットが1回/週しかない事に、どのように生活すれば良いのか不安で仕方なかった事を思い出します。現在1年9か月が過ぎ、現地の人々から生活する知恵を学び、人々に支えてもらう事で、日本と全く違う暮らしにも慣れてきました。派遣された1年目は日本と全く違う生活に慣れること、2年目は現地の人々の中に溶け込み、日本人である自身をアピールする事をしてきたように思います。

診療所でも日本と全く違う環境に戸惑いました。同僚から学び、私が行えないような出産の介助や傷の縫合などは手伝ってもらいながら、現在は現地の看護師同様に業務を行っています。共に働くことで見える問題点を同僚と共に解決できるように取り組んできました。例えば他職種(看護師・薬剤師・マリリアオフィサー)との意見交換・情報共有するためのミーティングを1回/月を開催したり、住民の健康維持のためエクササイズクラスを実施したり、健康な身体作りのための食事指導や妊婦さんへの指導などです。診療所の環境を働きやすく改善したいと思っても、言葉が違う事で同僚に上手く伝わらなかったり、手伝ってもらえなかったりすると、時には腹が立つことや悲しくなることもあります。なぜ分かってくれないのか？もっと働きやすい環境にして、患者さんのことを考えて働こうよ！と自分の気持ちを同僚にぶつけたこともあります。でも、これは自分の考えを相手に押し付けていることになるのかもしれない。相手はどのように考えているのか？どんな希望があるのか？国も文化も環境も違う、そんな彼らに日本の常識を押し付けることが、果たして良いのだろうか？と悩むこともあります。正解はない

と思います。しかし常に相手の立場で考え、尊重すること、お互いに話し合う事が大切だと思っています。では、私ができることは何だろうと考え、他の隊員と協力しセゲでスポーツ・健康フェスティバルを企画し開催しました。他の隊員にセゲ小学校で運動会を実施してもらい、診療所や教会で身体測定・健康チェックと食事指導を行いました。小学校では生徒達とその親も参加し身体を動かすことの楽しさを実感してもらい、住民の方々に健康について少しでも考えてもらえた一週間になったように思います。そして、日本人ボランティアの存在を多くの人に知ってもらえる良い機会になりました。一人では成し得なかったことが、他の隊員と協力することで実現することが出来ました。現地の人々だけでなく、同じ日本人ボランティア同士が協力し、ソロモンの人々のために何が出来るのかと考え実行できたことは嬉しく思います。

セゲでボランティアを行うことは、診療所内での業務や活動をするだけではありませんでした。ここで現地の人々と共に生きていくことです。同じ生活をしているからこそ、トイレやシャワーが各家庭にないなど生活環境が十分に整っていないことで起こる健康についての問題点、医療現場の実際、健康に安全に生きていくことが日本と違い困難であることなどが、見えてくるのです。それらの問題点が分かっても現状を変えることは難しいです。でも諦めたら何も変わりません。厳しい環境の中でも、互いに協力し助け合いながら、笑顔で過ごしている彼らを見てきました。子供も大人もお年寄りの方々も、人に備わっている力を十分に発揮し自然の中で生活されている姿はたくましく、尊敬の念を抱きます。そんな人々の可能性を信じ、お互いの存在を尊重し歩み寄ること、それが大切なのではないかと考えています。

私はここで、多くのことを学び経験させてもらうことが出来ました。私という日本人を受け入れてくれた人々に対して、残された時間を感謝の気持ちを込めて丁寧に関わっていきたいと思います。そして、今後ここでの学び・経験を他の人達へ伝え、ソロモンの人々との繋がりを少しでも多くの人達に広げていきたいと思っています。



シャワーがない家庭の人たちは、道端にある水道で身体を洗います。
水不足の時は、私もここでシャワーをします。



洗濯機はないので、診療所で使用しているシーツを川で洗濯します。
大きなシーツを洗うのはとても大変な作業です。



Marobo lagoonの海は最高に美しい! この自然豊かな海を汚さず保ち続けて行って欲しいと願います。



現在は同僚と同じように業務を行っています。
健康に育ってもらうよう赤ちゃんに必要な注射を行います。



セゲで生きていく術(火の起こし方も)を教してもらいました。今では火を起こすのも慣れたものです。



毎週木曜日は妊婦健診の日。妊婦さん達に安全に出産してもらえるように、妊娠中の身体の変化と注意事項を説明します。



教会のメンバーと違う村へお出かけした際、みんなで折り紙を折りました。日本人である私を受け入れ、日本人の文化に興味を持ってもらえるとうれしくなります。



他の隊員と協力し、10月10日(日本の体育の日)にセゲ小学校で運動会を行いました。
生徒のご両親にも参加してもらい、みんなで楽しみながら色々な種目に取り組みました。



スポーツ&健康フェスティバル中に、教会でもBMIの測定と健康体重・食事についての説明をしました。
みんな興味を持ち、真剣に聞いてくださいました。



週1回のマーケット。ソロモンのローカルフードであるモツ料理(石蒸し焼き料理)が並びます。
その中のキャッサバプディングが大好きで、毎週買って食べてます！



魚を捕まえるのに、手作りの銃のようなモリを使用されます。魚を食べたくなったら海に漁に行く、
ここでは生きていくための仕事は毎日の食糧を調達すること。生きることは、食べること。
食べることは、生きること！